特殊教育推進協議会・昭和54年12月1日発行

再刊に当って

岡崎市特殊教育推進協議会長
太田　昇

特殊教育に世の関心が高まり、障害児に援助の手がさしのべられるにつれて、私は、子どもたちが、かえって過保護になりはしないかと心配している。教育を、子どもたちの自己実現に手を貸してやるいとなみだとするならば、過剰な援助が、子どもたちの自己実現をはばむことになりはしないかと、ひそかに危惧するからである。

これと同じようなことが、特殊教育に携わる教師についてもいえる。特殊教育の困難性のゆえに、指導の創造性や厳密性を欠くなど、ある種の甘えが、その心底に潜んでいるとするならば、子どもたちを可能な限り伸ばしてやれないのではないかと思うからである。

よく、校長や同僚の無理解を嘆く人を見る。嘆いて、手をこまぬいてばかりでは、障害児教育の展望は拓けない。無理解な教師がいれば、たとい校長であろうと、教室へつれてきて子どもを見させ、理解させてしまうくらいの気概がほしいと思う。

一方、教室にばかり籠って、ぐちばかり言っている人がいる。ぐちをこぼしていても、子どもの教育は良くならない。教室を出て、普通学級の担任とともに（いや、それ以上に）学校の仕事を積極的にやることである。他の教師たちと協力する中で、教師間の心の交流や共通理解が得られ、とかく孤独になり勝ちな私どもの心を奮いたたせてくれるきっかけを与えてくれるものである。

特殊教育に対する全校体制は、このようなわれわれの積極的な姿勢によって、おのずからつくられると信じている。

為すことにより学ぶ

作業学習を重点に

かわるすがた

根石小　甲斐礼子

六月四日　晴

きょうもよい天気である。玄関西の植込みに散水していた。この頃どの子も作業が熱心にやれるようになってきたのでうれしい。T児がそばへ寄って来たかと思うと

「先生、あれなんの木…？。」

と聞く。

「あれはキョウチクトウっていう木だよ。」

と教えてやると

「花が咲くう…。」

とまた問い返してくる。この子のこんな質問に驚き、思わず手をとめてふり返り顔を見てしまった。ニコニコしている。

働きの中から

やる気をおこす

この頃国語で視写をさせてもあかず、長続きするようになってきたし、無気力であった今までの態度が少しずつ変容しつつある。

作業学習をしているときの彼の態度は額から汗を流し、真剣そのものである。手足を動かし力を出す働きの中から、何かを学びとってやる気をおこしてきたのだと思う。技能的にはうまくできないこともあるが、なまけるということをしない。やろうという気もちがいっぱいである。そんな心の動きが、教科の学習その他、すべての態度を変えつつあるのかもしれない…。

（日記より）

本年度より統合的な学習、系統的な学習に加えて、作業学習にも重点をおき学級経営をすることにした。

作業学習には週三時間を当て、二学級合同で行なう。働くことに喜びをもたせ、からだを通しての人間形成につとめるよう努力している。

学校農園に学級花壇にと、おりおりの花が咲き、作物とともに、子どもたちのみのりを待っている。

とうもろこし植え　　根石小学校

菊づくり　　六ツ美中学校

子らと歩む

ああ運動会

大樹寺小　高橋順子

一列に並んだ三十人の先生方がラジオ体操第一を一斉に始める。三年目にして初めて子どもの側からそれを見た。MとSとNの三人を一年生の中に入れ、私は彼らのそばに付き添っているからだ。一瞬、孤独感が頭をかすめた。しかし、すぐにNが私を現実に引きもどしてくれた。

「先生、おしっこ。」

MとSをその場に残し、少し離れたトイレまで、Nをつれていく。ラジオ体操第一の音が、むこうの方で聞こえる。

徒競争。春の小運動会よりは補助が少なくてすんだ。しかし、Mだけは横に並んで一緒に走った。次のグループの子たちが次々と追い抜いていった。それでもMは、春の時のように立ち止まらずに走り通してくれた。

大玉送り。二年生のTが入っている二組は、予行演習と同じく最下位である。せめてもの救いは、演技中のTのうれしそうな笑顔と、最下位の原因がTだとせめる同級生がいなかったこと。

朝方の雨も上がり、青空の中に秋の大運動会は終わった。陽に焼けた七つの顔が、なぜかまぶしかった。

―図書紹介―

○自閉症・文明社会への動物学的アプローチ

N・ティンバーゲン

新書館　一、五〇〇円

一九七三年のノーベル医学賞を受賞したのはこの本のためだといわれている。

○ことばの発達とその障害

村井　潤一　他

第一法規二、三〇〇円

言語発達を理論的に述べ、障害克服のための指導法を言及している。

子どもの作品

バレー大会

甲山中　一年

今日のバレーのしあいがはじまるまでどきどきはぜんぜんしなかった。ならぶと、まずはなしがありました。それからぼくたちはCコートにいって、さいしょA組がやりました。うまく点がはいってA組がかった。

こんどは、ぼくたちの番がきました。しゅんかんどきっとしたけどきにしないでおりました。ふえがなってしあいがはじまりました。はじめのうちはこちらがよかったけれどあとからどんどんわるくなってしまいました。

それからちょっとれんしゅうをして一年五組の女子としあいをしました。A組がでてやりましたが、ちょうしがわるくてまけてしまいました。

まけたけど、れんしゅうをやりだしてからみんなはうまくなったと思います。

どっちぼうる

矢作東小　六年

はるくんと　どっちぼうるをやった。
ぼうるをなげた。
ぼーんとなげた。
たいやにあてた。
ぼくは　ころんだ。
いたい。
はるくんは　くすくすわらう。
足からちがでた。
いたかった。
でもなかなかなかった。

。連尺小　五年

評　一つ一つの花が話しかけるような楽しいふんいきを作りました。

。葵中　一年

評　画めんいっぱいの大きな顔、ともだちとの、かたたかい心のふれあいを感じます。

登校拒否に思う

井上恭夫

新学期になってやはり登校拒否が出て来た。高校は義務教育でないので内容はより複雑なものである。登校せずに家庭に止るものであるが、家庭に止らない時は怠学と言う事になろう。それは学習からのエスケープであるからである。

学校恐怖は分離不安反応状態が内面にあっての恐怖神経症状態であるが分離不安をもたず怠学でもない拒否現象を経験することがある。これらの情緒因は思春期をひかえて中学時代にはじまると思えてならない。拒否症状は入学後一・二カ月がその準備期で夏休み明けに目立っている。「遅刻したくなかったから」「宿題が間に合わないので比較されるのがつらい」「完全に答える自信がないので」と言ったものもある。「中学時代の先生に声をかけてもらいたくなった」と言うのもあった。しゃべらなくても解ってもらえるからと言う依存性や幼稚性をもったものもある。何れにしても学習進度、成績或は友人関係等が負担としておいかぶさっている。

意識の底にある不安を一寸したミスで意識の表に浮かびあがらせてしまうのであろうか。登校せよとの刺激に強く反撥し抑うつ症状を感じさせることも少なくない。女生徒の身体的変化に母はよく対処出来ると思うが男生徒の場合は友人との話し合いで解決していることが多い。この辺にも親は避けようとする傾向があり、この問題がうまくいけば拒否となる誘因は防げないだろうか。育つ子を育てゝしまったと言う親の態度を含めて社会情勢が無関係ではないと思う。「精神科へ相談にいく」という言葉の中に親へ勇気を促している訳であり、この勇気を予防の方向へ発揮していたら、子供は自己決定の出来る理性と安定した情緒をもった中・高校生となっていくのではないだろうかと思うのである。

（岡田病院副委員長）

学級新聞「きかんしゃ」発行

城北中学校

城北中の鈴木学級では、学級新聞を毎土曜日に発行している。「子どもたちの発想ではじまった新聞も、初めは絵ばかりで文はつけ足しだった。この頃は文が伸び、何とか読めるものになってきた。話し合って文を考えている子どもたちの姿はほほえましい風景だ。全職員にも配布、賞賛され、喜んでいる。もう十六号、三月迄は続けたい。」と鈴木先生も嬉しそうに語られた。

第1回 東海北陸特殊教育研究大会

金沢市で開催

大会報告記

南中　志賀　忍

去る八月二七・二八の両日金沢市で第一回東海北陸地区特殊教育研究大会が開かれた。

全大会は、「義務制を迎えての問題点と今後の課題」をテーマに特殊学級、養護学校、行政のそれぞれの立場から討議が重ねられた。その中で文部省特殊教育課宮崎直男調査官の述べられたことより二・三拾ってみたい。

◇特殊学級対象者の整理

精薄児プラス情障児の学級は、精薄学級としてもよいが情障児のみの学級は情緒障害学級としなければいけない。

◇特殊学級担任の指導力

特殊学級担任たる者は、学校全体を指導できる実力を持ち、単に特殊学級の指導のみでなく、全職員・全児童生徒の指導の中心になれ。

◇特殊学級卒業生の問題

障害の重い子たちはレールに乗った。これからは軽度精薄者、即ち職業的自立のできる子たちの指導に力を大いに力を入れる方向に進むべきだ。

講演会は、「春男のとんだ空。」「茗荷村見聞記」等の映画で有名な山田典吾監督であって、ひとことひとことに深い感銘を受けるとともに、私たち教師の努力の足りなさ指導力の足りなさを痛感させられる一時間余であった。

学校全体で

障害児教育を考えるとき

スエーデンの例を上げ、障害者を健常児と共に教育することの大切さを強く訴えられた。障害児の指導を一学級だけで考えることなく、学校全体で「障害児教育とは何か。」を考えていかなければと思う。

また、障害児だからと言ってこんなこと指導してもだめだろうと教師たちは考えがちである。ことばにしろ、数にしろ、繰り返し指導すれば覚える。それが半年かかろうとも一年かかろうともくじけず指導し続けるのが教師と言うものである。全力をそそいで指導してもらいたい等々、熱っぽく話された。

適切な就学を！

就学指導委員会開かる

新入学児童の適切な就学をはかるために就学指導委員会があります。毎年五十人前後の障害児が委員会によって就学先が決定・助言されます。

就学指導委員会の構成メンバーは

・学識経験者（愛教大）
・専門医師（精神科医）（小児科医）
・福祉関係者（児童相談所）（福祉センター）
・特殊学校長（岡崎養護学校）（安城養護学校）
・教育委員会
・特殊学級関係者（校長二名）

の十名です。その他に五名の協力委員が参加します。

決定には慎重を期するため

1. 幼・保育園からの実態報告
2. 協力委員の観察
3. 専門医師等による教育相談

等によって、より正確な資料を集めます。

本年度は四回の教育相談会と三回の就学指導委員会がひらかれます。

婦人会館で　教育相談

◆あとがき◆

◇会報「かいはつ」の第一号をお届けします。一昨年以来中断していました「開発」の伝統を受け継ぎ、内容の充実をはかりました。ご意見・ご感想を係までお寄せ下さい。

◇お忙しいなか、玉稿をお寄せ下さった井上先生に心からお礼を申し上げます。

連絡先
六ツ美中学校内　加藤
TEL　四三―二〇七一

声

小さな芽

久後崎町　山本洋子

わが子の手を握りしめ、言い知れぬ不安と焦燥の思いで校門をくぐってから、すでに一年半の歳月が過ぎました。その頃全く言葉の無かったわが子にも次第に単語が出はじめ、この頃では平がなも書けるようになりました。また偏食が激しく弱々しかった子が牛乳を飲むようになり、今では給食全部をたいらげるほどとなり、体力もつき一日も休まずに登校しています。また、学校の皆さんは「おはよう。」「おはよう。」と元気な声をかけてくれますし、教室まで手を引いてくださる子もいます。誕生日にプレゼントをしてくださった子もいます。

こんなやさしい学校の皆さんや根気よくご指導くださる先生方に囲まれ励まされて、わが子にも小さな芽がふき初めたような気がして、希望にわく感謝のこのごろです。